



自然から学ぶ恩田の子

副校長 鷺澤 志保子

4月から2か月が経ちました。過ごしやすい季節になってきましたが、それは私たち人間だけでなく、生き物にとっても同じです。恩田小学校で日々生活していると、実に様々な動植物を見ることができます。そして、その動植物を大切に子どもたちが、この恩田小学校にはたくさんいます。



登校してくると、真っ先に育てている野菜の苗にやって来て、優しく水やりをする子、校長室の前に置いたルリタテハやアゲハチョウの幼虫を観察して、その成長の変化を感じている子、休み時間、飼育小屋のうさぎを一生懸命にお世話する子など、実に様々です。時には、アリが餌を運ぶ様子に時間を忘れるほど、たくさんの子がしゃがんでじっと見守る姿もありました。

私たち大人からしてみると、どれも何気ない光景であり、見過ごす場面かもしれません。けれども、子どもたちにとっては、間近で見る動植物の成長が、新しい大きな発見なのです。「私の野菜に黄色い花が2つ咲いたよ。」「この幼虫、昨日よりも大きくなってきた!」子どもたちのつぶやき一つひとつには、これまでになかった初めての気づきや喜びが、言葉となって表れます。「アリの巣は、どこにあるのかな?」「このチョウ、どんな色になるのかな?」観察したことで新たな疑問も生まれます。子どもにとって『自然にふれる』ということは、本来人間がもっている諸感覚を刺激し、好奇心を育むとともに、感動を知ったり、自然の美しさや神秘さを味わったりすることができます。恩田小学校の子どもたちから、改めて、自然との関わり大切さに気づかされました。



これから梅雨の時期になります。動植物にとっては、成長を促す恵みの雨にもなります。たくさんの自然とのふれ合いから新しい感性を磨いていく恩田の子どもたちを教職員一同、温かく見守っていきたいと思います。